

黒崎分會	昭和四年一月	全黒崎町驛前 石田和吉方	二、石田和吉 島津重藏
折尾分會	昭和四年四月	折尾町警察横 原次方	

支部役員氏名

支部長	安日 新	副支部長	濱橋文作、木下 涼
書記長	川島眞二後三伊藤卯四郎	會 計	島津重藏
顧問	小屋原惣三郎 今岡與市	藤原代吉	白石末造 村田宗次郎
執行委員	吉田善次郎(兼書記)伊東卓三 大林重雄 谷口友太郎 岡本徳市 兒玉文武 宮脇庄藏 三代里見 仲西 湊 原田正人 江藤實藏 幸 義知 酒井榮作 徳山喜代市 難波豊一郎 野上友次郎 宮原琢磨 吉田嘉市 如 實藏 坂本幾太	猪俣秀吉 松尾政六 赤星冬洞 馬場猪一郎 彌永七次 横大路 茂 柏原守三郎 石本良一 三島 徳 疋田政三郎	志原宗太郎 植山岩雄 堀田國雄 石橋和一 松浦 勇(兼常任書記) 香月洗三郎 益田 孝 原田國定(兼書記) 關 矢直 戸田巖助 吉永重藏 中野柳吉 池邊丑之助 嶺 慶二 石田和吉 島津重藏 原 廣次

市議員

代議士	龜井真一郎	濱橋文作	木下 涼	今岡與市	幸 義知
市會議員	安日 新 横大路 茂	島津重藏	吉永重藏	松尾政六	

議員統制委員氏名

石田和吉	小森亮助	池邊丑之助	吉田嘉市	江藤實藏
内藤友太	仲西 湊	友永常藏	石橋和市	石川是義
宮原琢磨	猪野兼義			

第二章 選舉運動

一、市議戦前の政情

吾支部一ヶ年の闘争の中、最も重大なる意義を有つものは、言ふ迄もなく四月卅日の市會議員選舉であつた。實に、此の選舉戦に於ける勝敗は、支部安危の岐路であつた。

昭和三年二月廿日の衆議戦に於ける吾黨の進出は極めて顯著なるものありたるは謂へ、民政、政友共に數十年の古き歴史と金力、情實に因る鞏固なる地盤の上に取り、また民憲黨も淺原健三君等十年の傳統的人氣と地盤を背景とし、兩つながら侮る可らざる大敵である。

而も、此の戦に於ては必ずや無産兩派の驚く可き進出を受くべしとして、自己の脚下の地盤動搖に畏怖したる民政黨及政友會は、衆議戦以後、多年の黨同異伐的政争を放擲し、「市政公新會」なる野合的聯合軍を組織して其の防禦陣地を固め、再らに、それでも猶ほ無産黨畏怖病を去り得ず、無法にも、市會に於ける自派の絶對多數を奇貨として、昭和三年九月人口僅か十四万の小都會八幡市の選舉區を六分するところの所謂小選舉區條例を設定し、以て一舉に無産派を屠らんとするの奸策に出でて居るありて、吾黨にとり、實に容易ならざる戦である。

此の横暴にして、時代逆行の微小選舉區設定の目的は、無産兩派の市會進出を其の最小限度に喰ひ止めんとするの陰